

各火山の 3 月の活動解説

【北海道地方】

めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

中旬から下旬にかけ、ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする微小な地震が増加したが、火山性微動は観測されず、地殻変動観測にも変化はなかった。

全磁力連続観測によると、2013年7月以降、96-1火口地下の温度が上昇している可能性がある。火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

とからだけ 十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加や発光現象などが観測されている。また、山麓の温泉成分にわずかな変化が認められている。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

たるまえさん 樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

2013年7月から活発化した山体西側を震源とする地震活動は、9月以降低調に経過している。山頂溶岩ドーム直下の地震活動も低調で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報（平常）]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報（平常）]

くつたら 倶多楽 [噴火予報（平常）]

うずざん 有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ほっかいどうこまがたけ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

えさん 恵山 [噴火予報（平常）]

【東北地方】

はっこうださん 八甲田山 [噴火予報（平常）]

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加し

た状態で経過している。2013年4月下旬以降に増加した大岳山頂直下付近が震源と推定される地震は、7月下旬以降減少傾向となり、火山性地震は少ない状態で経過した。

山体周辺の地殻変動観測では、2013年2月以降、小さな膨張性の地殻変動がみられていたが、8月頃から鈍化し、11月頃からは停滞している。噴気活動に特段の変化は認められないが、火山性地震の活動は継続していることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

いわてさん 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山性地震は一時的にやや多い日もあったが、概ね少ない状態で経過した。火山活動は低調に経過しており、噴火の兆候は認められない。

あきたこまがたけ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

めだけ 女岳では噴気地熱域が引き続き確認されている。火山性地震は少ない状況で経過した。地殻変動にも変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められないが、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

ざおうざん 蔵王山 [噴火予報（平常）]

火山性地震は少ない状況で経過した。地殻変動及び噴気活動にも特段の変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められないが、2013年1月以降、火山活動の高まりがみられるので、今後の活動の推移に注意が必要である。

あづまやま 吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いているが、火山性地震は少ない状況で経過した。ただちに噴火する兆候は認められないが、火口内等では火山ガスの噴出が引き続きみられるので警戒が必要である。また、風下側でも火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん 岩木山 [噴火予報（平常）]

あきたやげやま 秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ちようかいさん 鳥海山 [噴火予報（平常）]

くりこまやま 栗駒山 [噴火予報（平常）]

あだたらやま 安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

ぼんたいさん 磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】**草津白根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]**

6 日夜から 7 日にかけて、湯釜から湯釜の南付近を震源とする火山性地震が一時的に増加した。その後、地震活動は低調に経過していたが、29 日から 30 日にかけて一時的に再び火山性地震が増加した。いずれも振幅は小さく、火山性微動は観測されていない。また、湯釜北側噴気地帯の噴気の状態や地殻変動等に特段の変化はなかった。

湯釜火口内の北壁等では引き続き熱活動がみられていることから、山頂火口から概ね 500m の範囲では、火山灰の噴出等に警戒が必要である。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるため、注意が必要である。

浅間山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

火山活動に特段の変化はなく、山頂火口から 500m を超える範囲に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。ただし、山頂火口から 500m 以内に影響する程度の噴出現象は突発的に発生する可能性があるため、火山灰の噴出や火山ガス等に警戒が必要である。

弥陀ヶ原 [噴火予報（平常）]

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるため、注意が必要である。

富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

GNSS¹⁾ による観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の長期的な膨張傾向が続いているが、2011 年頃から鈍化してきている。

その他の観測データに特段の変化はみられず、火山活動は概ね静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

22 日 11 時頃から 15 時頃にかけて、山頂付近の浅い所を震源とする火山性地震が増加し、わずかな山体膨張を示す傾斜変動が観測されたが、地震回数の減少に伴い次第に収まった。また、その他の期間は、火山性地震は概ね少ない状態で経過した。火山性微動は観測されなかった。

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 2 月以降はやや少量となっている。

GNSS¹⁾ 連続観測によると、2000 年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞している。島の南北を挟む長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるためと予想される地域では火山ガスに警戒が必要である。

西之島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地が拡大しているのが確認された。また、海上保安庁による空中写真等の解析による結果、新たな陸地の面積は 24 日の時点で 0.68 km² となっていることが分かった。

今後も噴火が続くおそれがあるので、西之島付近では噴火に警戒が必要である。また、周辺海域では浮遊物（軽石等）に注意が必要である。



図 2 西之島 噴火の状況 (24 日 14 時 16 分)
北西方向から撮影・海上保安庁提供

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震は前月より増加し、やや多い状態で経過した。また、国土地理院の地殻変動観測

各火山の詳しい活動解説は、気象庁ホームページの以下の URL に掲載されている火山活動解説資料をご参照ください。
http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

では、2013 年 11 月頃から沈降の傾向がみられ、2014 年 1 月頃から停滞していたが、2 月下旬頃から隆起の傾向がみられることから、火山活動はやや活発な状態で推移している。

3 日から 9 日に海上自衛隊の協力により実施した現地調査では、阿蘇台陥没孔（2004 年 6 月に水蒸気爆発発生など）で、前回調査（2014 年 1 月）と同様、孔の中の湯だまりは認められず、その他、島内の噴気、地熱域等に特段の変化は認められなかった。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（旧噴火口等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

福岡ノ場ふくとくおかのぼ [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

なすだけ
那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

にっこうしらねさん
日光白根山 [噴火予報（平常）]

にいがたやけやま
新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

やけだけ
焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

のりくらだけ
乗鞍岳 [噴火予報（平常）]

おんたけさん
御嶽山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

はくさん
白山 [噴火予報（平常）]

はこねやま
箱根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

いずとうぶかさんぐん
伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

にいじま
新島 [噴火予報（平常）]

こうづしま
神津島 [噴火予報（平常）]

はちじょうじま
八丈島 [噴火予報（平常）]

あおがしま
青ヶ島 [噴火予報（平常）]

【九州地方及び南西諸島】

あそさん
阿蘇山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]
←12 日に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（平常）に引下げ

阿蘇山では、火山性微動の振幅が増大し、二酸化硫黄の放出量が増加するなど、火山活動が高まったことから 2013 年 12 月 27 日に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）へ引き上げた。中岳第一火口では、1 月 13 日から 2 月 19 日にかけて、ごく小規模な噴火が時々発生した。

その後、噴火の発生はなく、3 月 4 日以降、二酸化硫黄の 1 日あたりの放出量は 1,000 トン以下に減少するなど火山活動が低下し、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったことから、3 月 12 日 11 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 1（平常）へ引き下げた。

噴火予報発表以降、火山活動に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。火口内及び火口近傍では、土砂や火山灰等が噴出する可能性がある。また、火口付近では引き続き火山ガスに注意が必要である。

きりしまやま しんもえだけ
霧島山（新燃岳） [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳では、噴火の発生はなかった（最後の爆発的噴火は 2011 年 3 月 1 日、噴火は 2011 年 9 月 7 日）。

火山性地震は概ね少ない状態で経過したが、新燃岳に隣接する大浪池及び韓国岳付近を震源とする地震が時々発生した。

GNSS¹⁾ 観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられる。

新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾ に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰だけではなく小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥石流や土石流に注意が必要である。

さくらじま
桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]

昭和火口では、爆発的噴火⁴⁾ が発生するなど活発な噴火活動が継続した。噴火は 75 回発生し、そのうち 60 回が爆発的噴火であった。大きな噴石が最も遠くまで飛散したのは、9 日 19 時 22

各火山の詳しい活動解説は、気象庁ホームページの以下の URL に掲載されている火山活動解説資料をご参照ください。
http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm

分の爆発的噴火で、3 合目（昭和火口から 1,300～1,800m）まで達した。

南岳山頂火口では、噴火の発生はなかった。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾（火山れき³⁾）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

まつまいおうじま
薩摩硫黄島【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。しかし、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では、火山ガスに注意が必要である。

くちのえらぶじま
口永良部島【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。しかし、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに注意が必要である。

すわのせじま
諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

おたけ
御岳火口では、1 日に爆発的噴火⁴⁾ が 1 回発生し、また、ごく小規模な噴火が時々発生した。噴火に伴う噴煙の高さの最高は、火口縁上 800 m であった。また、夜間には高感度カメラで火映が確認された。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km

の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石²⁾ に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石²⁾ が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ
鶴見岳・伽藍岳【噴火予報（平常）】
くじゅうさん
九重山【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】
うんぜんだけ
雲仙岳【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】
きりしまやま おほち
霧島山（御鉢）【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- 1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 3) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 4) 桜島、諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としている。